

ダイバーシティ就労支援士養成研修（案）

【研修趣旨】

ダイバーシティ就労支援に取り組む機関・団体等がその機能や役割等の強化・改善を図るために必要な人材養成を行う。当面は、障害者就労支援アンケート調査回答法人等を対象に実施する。研修受講者に対し、「ダイバーシティ就労支援士」を付与する。2020年度に研修プログラムを開発し、2023年度から研修を実施する。

【研修カリキュラム項目】（案）

- 1, 「ダイバーシティ就労の理念」の確認
地域プラットフォームで「ダイバーシティ就労」促進のために活動してくれる人を育てる。
- 2, 現行制度（まだまだ、有効利用が可能な制度、主に就労訓練制度）就労準備支援事業・認定就労訓練事業（生活困窮者自立支援法）、重層的支援体制整備事業（社会福祉法）、多様な雇用・訓練施策の制度・の有効利用
- 3, 態様別の特性理解
 - 日常生活自立、社会自立支援を含む就労支援、特にアウトリーチ的活動が必要な人々
 - ・ひきこもり
 - ・ホームレス
 - ・ネットカフェ難民
 - 医療的ケアが必要な人々
 - ・難病患者
 - ・薬物依存者、アルコール依存者等
 - 偏見、差別による働きづらさをかかえる人々
 - ・LGBT
 - ・刑余者（刑務所等出所者）
- 4, 訓練プログラムの作成演習
雇用市場のニーズ、成長市場調査、雇用に結びつく訓練プログラムを就労支援の現場で共同開発。（JEED や労働局の支援）
- 5, 企業での実地研修受け入れ方策
企業を含めた地域社会の変革があつてこそ、ダイバーシティ就労は実現する。
企業とのパイプ構築、研修受け入れプランの提案。

（※）以上の項目を、ワークショップなどの参加者が、できるだけ体感で得られるように、研修を工夫する。

（※※）研修プログラム作成チームを発足させて検討する。

メンバー案：春名職業総合センター副統括研究員・大学研究者・障害福祉事業者・生困事業者・若者就労支援事業者等

【研修プログラム】（案）2022年モデル事業実施地域、同検討地域、同実施申請に向け働きかけている地域から50人前後を予定。

研修は週1日、合計4日間（1日のコマ数は5時間・合計で20時間）

①10:00～11:00、②11:10～12:10、昼食休憩 12:10～13:00、③13:00～14:00、④14:10～15:10、⑤15:20～16:20⑥放課後タイム 16:20～17:00（参加者の方の交流と情報交換等）

1・2日目は共通（オンライン）、3・4日目は「個別支援関係とネットワーキング」と「プロ

「プログラム開発」から選択して、会場での参加。

講義方法	日程	内容
オンライン or 録画 (両方実施の可能性もあり)	1日目	①ダイバーシティ就労支援の理念 ②③現状の就労支援制度(障害・生困・若者) ④社会サービス等を利用した包括的支援の調整 ⑤就労訓練制度・重層的支援体制整備事業・その他雇用訓練制度
オンライン or 録画 (両方実施の可能性もあり)	2日目	①②アセスメント理論 ③態様別の特性理解(基礎) ④態様別実例Ⅰ ⑤態様別実例Ⅱ
グループ1(個別支援関係とネットワーキング)		
会場参加	3日目	①当事者と創る支援計画(カスタマイズ就業、春名氏) ②③訓練等を活用した支援プログラム ④⑤態様別の事例から訓練プログラム作成
会場参加	4日目	①地域の企業との関係性構築 ②企業への実地研修受け入れ案等のプレゼン ③働く場を利用した支援プログラム ④ジョブコーチ等、就労後の支援 ⑤ダイバーシティ就労支援の今後の展望
グループ2(プログラム開発)		
会場参加	3日目	①当事者と創る支援計画(カスタマイズ就業、春名氏) ②個別支援(ケース)連携のあり方・仕組みづくり ③訓練等を活用した支援にかかる連携(労働施策、自治体、訓練機関・団体等) ④社会サービス等を利用した包括的支援にかかる連携 ⑤地域の態様別支援機関・団体との連携
会場参加	4日目	①訓練等を活用した支援プログラム ②働く場を利用した支援プログラム ③態様別の事例から訓練プログラム作成 ④ジョブコーチ等、就労後の支援 ⑤ダイバーシティ就労支援の今後の展望

○数字はその日の時限、1コマ60分